

## 「地域とともに作る植物標本集ーハーバリウム・霧多布ー」

認定特定非営利活動法人 霧多布湿原ナショナルトラスト

浜中町では文献上、およそ 700 種の植物が確認されているが、標本として浜中町に保管されているものはほとんどない。標本は地域の調査研究や環境教育の基礎資料となるため、当団体では、2011 年より釧路市立博物館や地域のボランティアの協力を得ながら、浜中町における植物の標本集を作る活動「ハーバリウム・霧多布」を実施している。このような基礎研究を継続するには、この活動への理解を広げていくこと、参加者のモチベーションを維持することが大切である。そのためには、得られた成果を社会に還元していくことが不可欠である。そこで 2015 年からは作製した標本の情報を、国立科学博物館が管理する標本データベース S-Net に登録し、インターネットを介して誰でも利用できる形にしている。また毎年企画展や植物観察会などの教育普及活動も実施している。



標本収集事業 2017/7/1 撮影

2017 年度は「標本収集事業」および「普及啓発事業」を実施した。「標本収集事業」では、2017 年 4 月～12 月までに植物の採集および標本作製、整理作業を 9 回実施した。参加者は講師を含め合計 26 名になった。2017 年度は未採集だったランやスミレなどの山の植物の標本を中心に集め、合計 74 種類、216 点の植物標本を新たに作製した。集められた標本の種類はおよそ 400 種となり、町内の全植物のおよそ半数を収集することができた。作製した標本のデータは S-Net に登録した。このほかに 7～8 月および 1 月には、霧多布湿原センターに保管されている 1,000 点以上の植物標本を、虫による食害から防ぐために、防虫処理を行った。



展示「あなたの知らないスゲの世界」

2018/2/17 撮影

「普及啓発事業」では、湿原を構成する植物であるスゲの資料作りと展示を行った。スゲは、ヤチボウズ（カブスゲ）などが人々に親しまれている一方で、分類が難しく、資料も専門家向けのものが多いため、なかなか一般の人が親しみや興味を持つのは難しい。多くの人がスゲに親しみ、関心が持てるように、松下和江氏にスゲのキャラクター化や、漫画の作製を 45 枚依頼した。またスゲ笠やお正月

のしめ飾りなども利用し、ミニ展示「あなたの知らないスゲの世界－振り返れば奴がいる－」を、霧多布湿原センターにて開催した。かわいいスゲのキャラクターや、正月飾りや樽酒を展示することにより、スゲという植物の存在すら知らなかった人が、足を止めて解説を読んだり、昔、お正月飾り用のスゲを刈って干していたのを見た、という地域の方からの反応があった。本事業は、展示を行ったことで解説やイラストの問題点や新たなアイデアが生まれたことから、今後も試作を繰り返し、よりよい資料として改善する予定である。

地域住民の手による本事業は、地域の基礎資料収集だけではなく、参加者が身近な自然環境を理解し、関心を持つことで、環境保全や調査、環境教育の将来の担い手となることを期待している。特に今回の普及啓発事業は、分類が難しいために敬遠されがちなスゲの仲間を、キャラクター化させて特徴をつかむという新しい挑戦であり、今後スゲを理解するための先駆的な教材に発展させ、より広い利用を目指したい。